

9 月 度 例 会 山 行 報 告 書		報告者	町田 修	参加 メンバー	CL 岸上薫 SL 谷口壮耶 西川徹朗 鈴木美穂子 OB: 金子 清 津田廣一 町田 修(記)
個人		報告日	11/12		
山域	四国石鎚山脈の山	山行日	'24年11月09日-10日		
山名	笹ヶ峰1860m				

山行目的	四国主稜線登山 & 親睦	コースタイム(天候: 天気図記号)
------	--------------	-------------------

配布先
集会: 12
山行: 1
リーダー
原紙: 集会担当者

ルート図(地図を見て正確に)

25万分の1地図

11/09(土) 晴れ
笹ヶ峰、丸山荘隊

12:22 笹ヶ峰登山口P 発
14:00 丸山荘着
14:50 丸山荘発
15:30 笹ヶ峰着
16:10 岸上・壮耶着
16:20 笹ヶ峰発
16:50 丸山荘着

笹ヶ峰、日浦登山口隊

13:50: 大永山トノ礼口発
15:40: ちち山山頂
16:10 岸上・壮耶着
16:20 笹ヶ峰発
16:50 丸山荘着

11/10(日) 晴れ後曇り

6:25 丸山荘発
7:50 ちち山着
8:10 ちち山発
9:40 獅子舞の鼻着
10:07 獅子舞の鼻発
10:35 大阪屋敷越
12:00 綱線山着
12:10 綱線山発
12:35 西山着
13:05 西山発
13:15 銅山峰
13:20 銅山越
14:35 日浦登山口着

22:40 刈谷着

〈山行報告〉 11/09(土): 岸上CLと壮耶SLは車を日浦登山口に回し、その足で日浦登山口方面から笹ヶ峰目指し山頂で我々と合流の予定で出発する。残りの5人も丸山荘まで1.5hのコースを出発する。V8と4人テント、大量の水(山荘の水場は枯れているとの前情報)と食糧で、久々の重荷に喘ぎながら山荘を目指す。山荘直下で下山中の人から、山荘の水は豊富に出ているよ...との確信情報に唖然!...まあ、ポッカも良しとするか? 手早くテントを張り、笹ヶ峰に向かう。上部は名の通り、小笹の登山道を快適に登る。北側には新居浜の町が見え、その向こうは瀬戸内海が広がっている。なんと島の多い海なんだろう。西側には石鎚山が堂々と岩峰を天に延ばしている。1h弱で山頂に着く。2百名山の記念撮影をしたいが、大永山トノ礼口からの2人が到着しない。その時、美帆子さんが北東側のちち山辺りに人影を見つけた! その人影は2つある! 岸上と壮耶がそこまで走破して来ている。その影は実物となり、小笹の道を飛ばしてやって来た。何という鉄人たちか? 早速、記念撮影を済ませ、テントへ下る。秋の日暮は早い。薄暗くなるテントで、持ち上げた防寒具を着込み夕飯の支度。我々しか居ないテントは、まわりを気にすることなくウクレレの音に歌を乗せ、宴は続いた。

11/10(日): 山荘の裏に丸山がある。この日は丸山から笹ヶ峰の北面をトラバースし、昨日2人の歩いたルートに出、ちち山に向かう。天気は快晴で、朝日の下に遠く室戸岬が浮かび、海面がオレンジ色に光っている。四国山脈の連なりと、北の瀬戸内海、東に太平洋を望み、なんと贅沢な景色か...。朝日に輝く早朝の登山を堪能する。高度を少しづつ下げながら、小笹の尾根道を気持ち良く歩く。最後に綱線山と西岳の急登に苦しめられたが、これも四国の最後の登山と思えば気も軽い。昨年歩いた西赤石からの下りルートと銅山越えて合流し、日浦登山口へ下る。笹ヶ峰山稜の山旅は、終日登山者にも合わず満喫できた。かつて栄えた別子銅山跡も石垣は苔むし、人影はない。住友財閥の礎を築いた鉾山は静かに佇んでいる。

町田

確認
(リーダー)
岸上
作成
(報告者)
町田

〈リーダー所見〉

北の愉快的仲間たちin四国も5年目を迎えました。今回で剣山〜三嶺、石鎚山〜東赤石山までの主要縦走ルートをはほぼ完登。このメンバーでこれだけの縦走をやり切ったことが、一番の思い出です。来年からは中国地方に場所を移して、200名山、300名山を中心の山行を企画予定です。これからも健康に気をつけて、このメンバーで長く楽しんで行けたらと思います。

四国主稜線縦走5年間の軌跡 点と線



東赤石山から
西赤石・別子銅山越へ(2023年)

シラサ峠から(2022年)
瓶ヶ森・伊予富士へ

石鎚山系(2021年)
石鎚山から土小屋へ

笹ヶ峰から
別子銅山越へ(2024年)

名頃から三嶺へ

三嶺から剣山へ
(2020年)

岸上Lは四国山脈の主稜に有る山々を、個別登山の点で登るのでなく、稜線から稜線へ、線でつなぐ構想で全体的な山域の景観と山の良さを醍醐味を求めた。その目的を達成するには、登山スタイルを縦走登山にし、尚且つ登山口と下山口へ車を配車する手法で完成度を上げた。そのためには、車移動時間ロスと本隊の行動に追いつく猛者が必要だった。そのプロセスを実現させたのは、岸上L本人と壮耶と西川の存在が全てであり、我々OBやゲストをも満足させる山行につながった。さあ、次からは中国地方の山々に動きますヨ！ 線の山行に感謝致します。

11月09日（土）丸山荘-笹ヶ峰 写真紀行



笹ヶ峰登山口

日浦登山口

大永山トソレ口

笹ヶ峰1860m



丸山荘とV8



大永山登山口から笹ヶ峰に闊歩する猛者！



笹ヶ峰1860m
2百名山登頂！



丸山荘前で夕食
その後、テントでのコンパに・・・

11月10日（日）丸山荘～ちち山～日浦登山口 写真紀行



別子鉱山の銅は、この銅山越えから、新居浜の港に運ばれた



丸山1547m
ここから縦走が始まる



小笹の道をちち山1855mへ



朝日の下に室戸岬とオレンジ色の太平洋が・・・見えるかな？



新居浜と瀬戸内海遠望



網繰山を経て最後の西山で